中国の旅へと誘う多様な魅力を発信

ツーリズムEXPOに出展 中国文化の深み 紹介

9月26日から3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開かれた世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン」に中国の観光をPRする大型ブースが開設され、連日、多くの来場者でにぎわった。中国からは12の省市から約50人の代表団が来日し、中国への旅行を直接呼びかけた。会場内のメーンステージでは海南省歌舞団による踊りを披露。ブース内では、太極茶道、茶芸のパフォーマンスと中国茶の試飲を行った。書道と篆刻（てんこく）の実演、少数民族の衣装で着飾った女性との写真撮影会なども。クイズに答えると各種の景品が当たる大抽選会なども実施した。展示やイベントを通じ、日本の消費者に中国への旅を魅力的に伝えた。

▶ツーリズムEXPOジャパンのメーンステージで披露された海南省歌舞団のダンスパフォーマンス（9月27日）＝海南省歌舞団は1991年に創立されて以来、オリジナルの民族舞踏劇「黄道婆」「中国に海南島有り」「海南島」「東坡九歌」「豊碑」「旗」などを上演。海南民族芸術の発展に力を注ぎ、海南島の歴史文化と、恵まれた海南の風景を表現している。

太極茶道のパフォーマンス

連日行列ができ、にぎわった中国ブース

民族衣装で中国をPR

茶芸の披露と中国茶の試飲も

印章への篆刻の実演

書道の実演

EXPO訪日団の団長に聞く

観光文化交流が重要 中日双方向で活性化

中国国家観光局
観光促進国際協力司
司長　李 世宏氏

――中国と日本の間の観光交流人口の現状はどうか。

「今年の実績では、1～8月の訪日中国人観光客数は前年同期比84％増の154万人、1～7月の訪中日本人観光客数は同7％減の152万人だった」

――日中関係改善の兆しが出てきている。訪中日本人観光客も徐々に戻るのではないか。

「訪中日本人観光客は徐々に戻ってきているが、数の減少にはさまざまな理由が考えられる。ただ言えることは、両国の先輩達が築き上げてきた友好交流関係を今の世代が引き継ぎ、次世代にも残していかなければならないということだ。

「中国ではリタイア層（60歳以上）がいま世界中に旅行に出かけている。彼らは日本語が分からないので、中国語によるサービスや表示があると安心して旅行ができる。また習慣上、飲み物は冷たいものよりお茶などの温かいものを好む」

「子供を連れた家族での訪日旅行も増えている。『旅行も教育の一つ』という考え方で、親はレジャーより子供の学びを優先する。最先端工場の生産ラインの見学など旅程の中に学びの要素を入れると喜ばれる」

「海外旅行慣れした層も出始めている。中国人向けの新しい観光ルートや、格安ツアーではない質の高い内容の旅行の提案が求められている」

「韓国や欧米各国はとくに昨年から、中国人向け査証発給手続きを続々と簡略化しており、それに伴って中国人観光客数も増えている。一定の規律は常に必要だが、査証発給条件の緩和や申請手続きの簡素化は、中国人観光客数の増加につながるはずだ」

――日本の観光業界にメッセージを。

「一方通行の旅行はコストがかかる。双方向の旅行にすることで全体のコストが下がり、市場も拡大する。中国と日本の観光業界は、それぞれの国内で各方面の協力を得て、努力を重ね、中日双方向交流の規模の拡大に努めなければならない」

【聞き手・江口英一】

天津の観光、芸術で魅了

交流促進へ 東京でイベント

10月27～31日の5日間

中国国家観光局駐日本代表処、天津市観光局などは10月27～31日の5日間、「天津文化観光ウィーク及び衆芳所在―東方芸術展」を東京・港区の東京中国文化センターで開く。中国を代表する港湾都市として栄えた天津市の文化遺産、観光素材などをPR。天津南開大学東方芸術学部の芸術家も来日。書画、篆刻の実演、陶磁器の展示も行う。イベントに先立ち天津の観光の魅力を紹介する。

□　□

天津市は、中国の4大直轄市の一つで、中国北方の渤海経済圏の中心都市だ。

国際貿易で有名な一大港湾都市でもある。北京との距離は120キロメートルで「京津城際鉄路（新幹線）」が約30分で結ぶ。

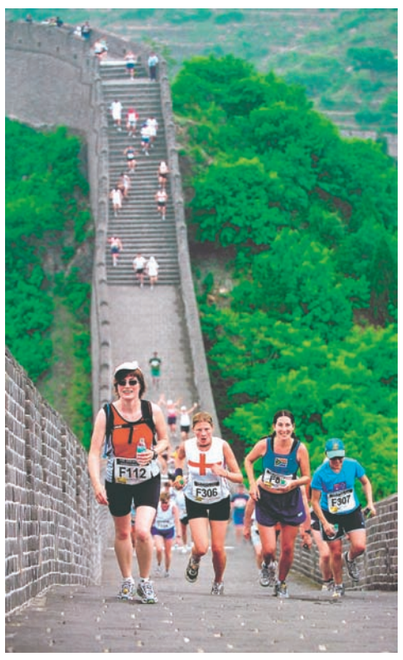
天津濱海国際空港には、19カ国の航空会社が乗り入れ、100を超える航空路線がある。年間旅客数は1千万人を超える。日本の都市との間を結ぶ航空路線も新規路線、チャーター便の就航が活発化している。

天津港は世界最大の人工深水港で、貨物輸送では180カ国・500港とつながっている。米国やイタリアをはじめとした大型客船も数多く入港。同時に6隻の大型クルーズ船の停泊が可能で、年間50万人の通客能力を有する。日中韓アジアルートのクルーズ船も多数運航されており、今後の国内外クルーズの拡大、発展が期待される。

利順徳大飯店＝初の外国人客向けホテルとして1863年に建てられた。国の重点文物保護に登録

シティツーリズム

天津市には租界地があったため、街にはエキゾチックな風情が残っている。英、仏、伊、独などの様式の建築物が230棟あり、「万国博覧会」とも呼ばれる。郊外に少し足を延ばせば、世界遺産、万里の長城の見学も可能だ。「黄崖関長城」は全長42キロメートル。1999年から国際マラソン大会も開かれている。


▶黄崖関長城＝世界文化遺産に登録。北斉時代に建てられ、明代に修復された。黄崖関は天津十景の一つで、国家4A級の景勝地。毎年国際マラソン大会が開かれている

▼古文化街＝天津の古い街並みの雰囲気を残した人気スポット

クルーズ

天津市内を流れる海河を遊覧する「海河遊覧船観光ツアー」は2009年に開始。デイクルーズ、ナイトクルーズなどを20余隻で運航している。また、コスタロマンチカ号、レジェンドオブシーズ号、ダイヤモンドプリンセス号、ビクトリア号などの国際豪華客船が天津東疆国際旅客本港を往来。毎年100隻以上の国際豪華客船が入港する。

海河クルーズ＝海河の両岸を眺められる

◆天津市の概要　中華人民共和国の四つの直轄市の一つ。中国北方最大の対外開放港
面積＝1万1760平方キロメートル。海岸線の長さは153キロメートル
人口＝1400万人
気候＝四季がはっきりした大陸性気候。春は風の日が多く、雨は少ない。夏は高温多雨。秋は快適。冬は寒く、空気が乾燥している
位置＝華北平原の北東部、太平洋の西海岸部環渤海湾の中心に位置し、北に燕山山脈、東は渤海に臨む。北京市との距離は120キロメートル
歴史＝「天津」の名が歴史に登場するのは1404年。明の永楽帝の頃に「天子経過的渡口」とあり、「天子がお渡りになった渡し場」の意味で「天津衛」と名付けられた。その後、9カ国の租界が置かれ、今も多くの洋風建築物が残る。良港に恵まれ、各地の料理も伝来。洋風建築とグルメは天津独特の都市風情

▼東疆港定期客船母港＝6隻の大型客船の停泊が可能

『天津文化観光ウィーク及び衆芳所在―東方芸術展』
開幕式：10月27日（月）午後3時～
挨拶、テープカット、席画披露と交流
展　　示：10月27日（月）～31日（金）
午前10時30分～午後5時30分
※最終日午後4時まで
講　　演：「私の初めての中国」（学生4人）
10月30日（木）午後4時～6時（予定）
セミナー：「天津観光の可能性」（天津市観光局）
10月31日（金）午前10時30分～午後12時30分（予定）
開催地：東京中国文化センター　東京都港区虎ノ門3－5－1　37森ビル1階
主催団体：東京中国文化センター、中国駐日本観光代表処、天津市観光局、天津市美術家協会、南開大学東方芸術学部
後援団体：
中華人民共和国駐日本国大使館、新華社日本総局、日本外務省、日本国土交通省観光庁、日本政府観光局（JNTO）、公益社団法人日中友好協会、日中友好議員連盟、社団法人日中協会、一般財団法人日本中国文化交流協会、一般社団法人日本旅行業協会、一般社団法人全国旅行業協会、一般社団法人東京華僑総会、日本華僑華人文学芸術界聯合会　（予定含む）

MICE

梅江会議展覧センター

天津市は、MICEのデスティネーションとしても注目を集めている。「中国旅游（旅行）産業博覧会」は2009年から毎年1回開催されている。今年は、9月19～22日に開催され、ブース展示や商談会、シンポジウムなどが行われた。クルーズ船やキャンピングカーなどの展示も。大型旅行博覧会として、世界の旅行業界から高い評価を得ている。

上海CITM

11月14～16日

1000人以上のバイヤーが参加する大型旅行博覧会

今年のCITM（中国国際旅行博覧会）が11月14日（金）～16日（日）まで、上海新国際博覧センター（New International Expo Center）で開催される。

CITMは毎年国内外から2千以上のセラー、千人以上のバイヤーが参加する大型旅行博覧会で、会期中は世界各国から参加者が集結する。3日間に渡って商談、特色あるブース出展による観光情報の紹介・発信が行われる。

中国は2013年に世界最大の海外旅行市場となり、2014年には約1億2千万人の海外旅行者を送り出すとの予測があるほか、現在世界3位の観光客受け入れ国となっている。今後観光の潜在力は大きく、市場は拡大する見込みだ。

中国観光局駐日本代表処では、第1種旅行業者を対象にバイヤーとして参加を案内する予定だ。

CITMについての詳細は公式HP（http://www.citm.com.cn/index.aspx）から。